

三か月ほど前、通りを隔てた向かいの家から、庭の部分を売ることにした、という話があった。その家は元来、二世代が住んでいたのだが、色々な事情からここ三年くらいは誰も住んでいない。庭は我が家の真前で、五十坪位の広さがある。庭木が何本もあり、枝は伸び放題。去年の夏には、セイタカアワダチソウが、人の背ほど大きくなり、庭を覆っていた。

話を聞いてからほどなく、五人位の職人さんが来て、太い木は枝を落とし、根から一メートル位を残して全部切り倒した。切った枝葉は庭に停めてあるトラックに積み込み、地面が見えるほど草を抜いてきれいに掃除をして帰って行った。たった一日で！

植木職人だったのだろう、見ていて心地よい程の働きっぷりだった。

次の日には、庭に重機が一台ぼつんと置いてあった。

何日か経過した朝、轟音がする。出て見ると重機がもう一機加わって動き出したのだ。人が操縦して、短く切った大木を引っっこ抜いていく。一機では手に負えないのだろうか、二機がそれぞれに動いていた。一日中。

翌朝見ると、重機は一機になっていた。そして庭の所々に木の切り株、根っこ、地下から掘り出したのだろう、石やコンクリートの残骸等が、山になって置かれている。やはり用途に合わせて、二機の重機が必要だったのだろう。

又、ある日、地震のように我家が揺れだした。そういえば、通りを一つ隔てた家から工事の予告が入っていた。隣接した家の向こうだ。建ってまだ三年も経っていないアパートの解体工事である。

その一帯は、農地を宅地にした所で、広々とした土地には次々に瀟洒なアパートが建っている。そして初期の頃のアパートを解体しているのである。

今回の重機は、まだ新しいその家を解体した後の、基礎のコンクリートを砕いているのだ。まるで喧嘩でもしているように、二機でぶつかり合いゴリゴリガリガリと音を立て地面ごと砕く。

地震のような振動を受けながら私は思った。

お助けマンを得て便利になったのは良いが、こんな贅沢はいやだ！